

危機管理官

[亀山 淳 住民部参事]



町議会

町には都の市町村で唯一の危機管理官が職員（住民部参事）として勤務しています。危機管理官は、緊急時には町長を直接補佐して、町の職員を指揮監督する権限を持っています。また、自主防災組織、防災訓練など住民と一緒に地域防災力の強化を図っています。平成30年度から危機管理官を配置して災害対策の強化を図ってきました。危機管理官からお話を伺いました。



子供たちへの防災教育（三小）

不眠不休の災害救助

地域の方々の応援が力になりました

Q 町の危機管理官となって、どのようなことに取り組みましたか？

— 災害情報を一元管理し、情報を共有するシステムづくりや、災害備蓄品の見直し、行政では対応しきれない部分を補えるように民間事業者との災害協定なども進めました。また、小中学校や町内会などでの講演活動もしました。ご希望があれば声を掛けてください。

Q 自衛隊ではどのような活動をしていましたか？

— 防衛大学校に入学してから36年間自衛隊に在籍し、陸上自衛隊の部隊で活動していました。部隊の指揮官や新人隊員の教育なども経験させていただきました。また、防衛省本省にも4年間勤務しました。

Q 自衛隊に入った理由は何ですか？

— 本当は数学の教師になりたいんですけど、6人兄弟の2番目で、家族に負担をかけないように防衛大学校に進学しました。今では、自衛隊に入隊して良かったと思っています。

Q 瑞穂町で危機管理官になったきっかけは？

— 55歳の定年を迎え、第2の人生をこれまでの経験を生かした仕事をしたいと思っていました。そこで危機管理官を防衛省本

省に希望したところ、瑞穂町を紹介されました。

Q 自衛隊ではどんなところの災害派遣を経験しましたか？

— 平成7年の阪神・淡路大震災、16年の新潟県中越地震、25年の伊豆大島土砂災害、27年の関東・東北豪雨など直接現地活動したのが11カ所、東日本大震災の時は後方支援でした。災害情報の収集などは数えきれないほどあります。

Q 自衛隊の方々は災害現場でどのように休憩をとっているのですか？

— 隊員は交代制で休憩をとります。訓練を受けているので大抵の場所で眠れます。指揮官はほとんど不眠不休になります。伊豆大島の時は指揮官だったので、当初の4日間ほとんど眠らずに指揮していました。

Q 災害派遣で忘れられない経験がありますか？

— 伊豆大島の土砂災害では、二次災害の恐れがある一方で、72時間以内なら救出できる可能性もあるため、指揮官として、隊員の命を守りながら不眠不休の人命救助活動になりました。過酷な状況の中、

地域住民の期待の重さ、隊員の気概の強さを感じました。そして、我々への応援は本当に力になりました。

Q 町の災害対策本部での最重要項目は？

— 何をおいても人命です。瑞穂町の消防団の皆さんが規律を厳格に守っていて、驚きと頼もしさを感じました。災害現場では消防団の方々の地元の情報や経験が大変役に立ちます。また、地域のつながりが強い町という印象を持っています。人命救助には欠かせない力です。

Q 趣味や特技は何ですか？

— 中学・高校はバレーボール部、少林寺拳法三段、自衛隊では剣道二段を取得しました。スポーツはするのを見るのも好きですね。それと単身赴任が長かったので料理もそこそこ得意です。牛すじの煮込みは結構いけると思います。

Q 議会についてはどうですか？

— 国会対応のQ&Aは作った経験があるのですが、自ら議会で答弁なんて経験はなくて…特に一般質問は、毎回冷や汗ものです（笑）

協力ありがとうございました。



災害対策本部運営訓練で指揮を執る亀山住民部参事（庁舎2階会議室）